

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

美術・工芸・デザイン専門教育の一層の充実を図り、造形文化の発展に貢献する日本一の専門美術高等学校

- 1 造形活動を通じて、造形文化の発展に寄与する「確かな学力」「表現力・プロデュース力」「企画・発信力」の育成
- 2 美術・工芸・デザインの技能を生かし、将来、社会の各分野で活躍できる創造力とバイタリティをもった人間の育成
- 3 美術・工芸・デザイン教育において、日本のセンター校として、造形教育の充実・振興に貢献し、「芸術・文化」の発展を牽引

2 中期的目標

1 造形活動を通して、「確かな学力」と「表現力・プロデュース力」「企画力・発信力」の育成

(1) 造形活動を通して、造形文化、造形表現に必要な「確かな学力」「表現力・プロデュース力」「企画力・発信力」の育成に取り組む。

ア 生徒全員が1人1台端末を活用し、ポートフォリオ活用等による系統的学習習慣を身に付けることで、基礎的な学力の向上から発展的な学力の向上を図っていく。令和2年度末に設置された全HR教室のプロジェクトを各授業実践で活用することにより、「表現力・プロデュース力」「企画力・発信力」を向上させる。また、「学習動画」やオンライン授業、教育アプリ等を活用し、予習・復習といった家庭学習を習慣化させることで、すべての教科で学力向上を図る。

イ 造形教育における幅広い知識・実技力を身に付ける指導を充実させるとともに、少人数展開授業やICTを活用した授業の充実を図る。

ウ 造形教科、普通教科ともにプレゼンテーションや相互批評を行うことを通して、表現力や思考力を鍛え、作品だけではなく言語や映像等を総合的に扱いながら自己表現ができる力を身に付けさせる。

エ 日本の作品や伝統工芸、世界の作品に触れる機会を通して、それらが育んできた造形文化への理解を深める。また、教員も指導力向上のために自己研鑽や研修参加に励み、魅力ある授業づくりに努める。

※学校教育自己診断において「授業内容に興味・関心をもつことができる。」の肯定的回答 (R1 80%、R2 84%、R3 90%)90%を維持する。

※「発信力」の育成について、全教室設置のプロジェクトや1人1台端末等のICT機器を活用して、プレゼンテーションできる力を身に付け、造形表現力とともに言語表現力の向上を図る。生徒が自らの考えを発表し、お互いの考えを認め、尊重し合える場づくりをすべての授業(教科・科目)で設定する。学校教育自己診断において「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある。」の肯定的回答 (R1 88%、R2 83%、R3 90%)90%を維持する。

2 社会の各分野で活躍できる創造力とバイタリティをもった人間の育成

(1) 美術・工芸・デザインの技能を生かし、将来、社会の各分野で活躍できる創造力とバイタリティをもった人間を育成する。

ア 美術造形との生涯に渡るかかわり方や大きな将来展望を考えさせるとともに、就労につながる志を育てるために、国内外で活躍する卒業生の講演、企業や芸術団体と連携した取組み、高一大・専連携講座等の一層の充実を図る。

イ 大阪市住之江区を中心とする地域連携を促進する。また、住之江区に限らず大阪の地場産業・地域文化を学び、「ものづくりの街」「文化芸術の街」大阪を全国に発信できるような企画力・発信力を養い、発表の喜びや社会貢献の大切さを体感させる。ボランティア活動等を通して、生徒に達成感を与えるとともに、生命を大切に作る心、社会のルールを守る態度を養う。また、新型コロナウイルス感染症の影響により停滞している連携を、特に防災面での連携をさらに進め、防災学習に生かしていく。

ウ 高校生活をより充実させるため、将来を見据えた具体的な目標を立てさせ、生徒一人ひとりに応じた指導を組織的に行う。また、高校生活全般において、きめ細かい相談ができるように教育相談体制の充実を図る。

エ 国公立大学(美術系)や難関私立美術大学進学を実現する指導体制を充実し、国公立大学進学希望者をはじめとする大学入学共通テスト受験者には、実技と学習にバランスよく取り組めるよう、補習・講習の整理と精選を行う。国公立大学10名程度を含む四年制大学進学者数100名程度を維持していく。

※進路指導の指標として、学校教育自己診断において「将来の進路や生き方について考える機会がある。」の肯定的回答 (R1 94%、R2 91%、R3 94%)「進路実現に向けて、進学や就職など適切な指導が行われている。」の肯定的回答 (R1 93%、R2 91%、R3 92%)、いずれも90%以上を維持していく。

※造形活動に意欲的に取り組ませるために、部活動への積極的な加入を促進し、複数部への加入による部活動加入率100%以上を維持していく。また「高校展」「芸文祭」等の展覧会への出品・入選、近畿・全国選抜展への出品数を維持していく。令和6年度においても現在の水準(美術の大阪府代表)を維持していく。学校教育自己診断において「高校展や芸文祭などの制作活動を通じて、達成感が得られる。」の肯定的回答 (R1 87%、R2 89%、R3 91%)90%を維持する。

※部活動指導や補習による、生徒・教員の負担を増やさないために、部活動の方針に基づき「定時退庁日」「ノークラブデー」を確実に実施する。

3 美術・工芸・デザイン教育の日本のセンター校としての役割

(1) 府立学校の専門美術高校、日本一の専門美術高校として、全国の美術・工芸教育を牽引するセンター校としての役割を果たしていく。

ア 「全国美術高等学校協議会本部事務局校」として、また「全国高等学校美術・工芸教育研究会副会長」として、専門美術高校だけでなく、全国の美術・工芸教育の中心的役割を果たしていく。教育活動・発表や展覧会を拡充し、近畿・全国に向けて発信していく。

イ 学校外での生徒作品の展示、コンクールへの参加、報道媒体への情報提供、HPの充実等により日本一の専門美術高校にふさわしい積極的な情報の発信を行う。そのために必要な施設設備及び教材教具等のさらなる改善と充実を図る。

ウ 大阪の美術教育の振興に貢献するため、本校の教育資源(施設設備、教員、大学・美術工芸団体等との連携関係)を有効に活用し、他校種研究団体とも連携して教員対象の研修会等を企画するなど、センター校として推進に努める。

エ 国内外の造形作品にも触れる機会をつくとともに、国際理解教育の推進を図り、外国の学校との交流や海外研修の実施を推進する。

※校内展示や美術館鑑賞により、常に優れた作品に触れる機会を設ける。特に、海外の美術作品等を扱う企画展や国際美術館等、国内で海外作品が鑑賞できる機会を増やし、世界の文化について考える機会をつくっていく。また、ICTを活用し、海外の学校と文化交流を図るなど美術専門高校ならではの活動について推進する。学校教育自己診断において「この学校には、他の学校にない特色がある。」の肯定的回答 (R1 98%、R2 99%、R3 99%)、95%以上を維持する。また、「海外の美術作品を鑑賞したり、他の国との美術に関する交流したりする機会がある。」(R4新設)の肯定的回答を65%以上にする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
前年比で向上した(5%以上)項目は、5つ。その中で「16 担任の先生以外にも保健室や相談室等で、相談することができる先生がいる。」に	第1回(6月21日) ・学校経営計画のうち「社会の各分野で活躍できる創造力とバイタリティをもった人間の

府立港南造形高等学校

<p>については、本校の教育相談が少しずつ生徒に浸透していることを感じる事ができた。本年度よりスクールカウンセラーの来校日を増やしたこともその一要因ではないかと推測する。「17 学校で、事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動すべきか指導されている。」は6ポイント増であった。これは、3年ぶりに避難訓練を実施することができたからだろうと思われる。「19 地域（住之江区）や大学、芸術団体との連携の機会がある。」についても、新型コロナの影響で実施できなかった地域連携が今年度は実施できたことに起因するものと思われる。このようにコロナ禍で奪われていた教育活動や行事が戻ってくることによって回復した数字も多く見られた。</p> <p>一方で唯一大きく低下した（9%）項目は、「9 命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」である。この項目が減少した原因を正確に読み解くことはできないが、今後も HR 等の取組内容の改善や高校生活での生徒たちへのアプローチの工夫など、教職員一人ひとりが意識しながら行動するよう促していきたい。</p>	<p>育成」の「美術造形との生涯に渡るかかわり方・・・一層の充実を図る。」に共感を覚えた。自分の好きなことが将来につながるのか、目標に一直線でもなくとも、様々な角度から仕事につながることもあるため、様々な分野で活躍する卒業生の講演は今後も進めてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事が「コロナ前」に戻りつつあると感じている。先生方の尽力に感謝する。学校でのイベントは、その意義も説明してもらえると皆が納得して行動できるのではと思う。今後も地域の方と繋がるイベントをお願いしたい。 <p>第2回（12月7日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事がコロナ前の状態で実施できているのは喜ばしい。キャリア教育「ようこそ先輩」では、実際に社会で活躍する先輩たちの話は、将来に不安を持つ生徒たちにとって貴重な経験になったと思う。この学校は先生方が生徒たちを見てくれているのを感じる。 ・地域交流を多くしていることが印象的。小中学校の教員向けの講習についてはぜひ実施してほしい。小さい時ほど美術教育が大切だと思う。 ・人とつながること、経験を増やすことを重視した取り組みが多く感じる。 ・災害発生時には、生徒と地域の皆さんが学校に避難することになる。日頃から地域との交流を通して、関係を深めていると良い。 ・ICTに関しては、まだ教員も生徒も十分な活用ができていないかもしれないが、皆が確実に使えるようになってきているので、このまま活用を進めてほしい。 <p>第3回（3月17日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営計画について、目標の数値は90%とあるが、88%の数値は誤差の範囲と考えてよい。評価できる内容で、修正をお願いする部分はない。 ・数字にあまりこだわらずに学校運営をしてほしい。 ・広報活動はよくやっており、志願者増に成果が表れている。 ・教職員の業務軽減について、先生にしかできないことを優先し、業務を整理してほしい。先生の元気がないと学校の元気がなくなってしまう。
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 造形活動を通して、「確かな学力」と「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」の育成	(1) 造形活動を通して、造形文化、造形表現に必要な「確かな学力」、「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」の育成 ア 生徒全員が1人1台端末を活用し、全ての教科で、学力の向上 イ 少人数展開授業やICTを活用した授業の充実 ウ 言語や映像等を総合的に扱いながら自己表現ができる力を身に付けさせる エ 美術文化への理解・教員の自己研鑽	(1) ア 全ての教科で1人1台端末を活用した授業を展開して授業への興味・関心を高めるとともに、家庭学習を習慣化させるために学習アプリ等も活用して、学力の向上を図る。 イ 造形活動に必要な「幅広い実技力」を身に付けさせるため、実技指導の充実を図るとともに、少人数展開授業やICTを活用した授業の充実を図る。 ウ 造形教科、普通教科ともにプレゼンテーションや相互批評を行い、表現力や思考力を鍛える。言語や映像等を総合的に扱いながら自己表現ができる力を身に付けさせる。 エ 国立国際美術館等の協力を得て、現代の作品、世界の作品、伝統工芸に触れる機会を増やし、美術・文化への理解を深める。また、教員の自己研鑽の機会を増やし、魅力ある授業づくりに努める。	(1) ア・学校教育自己診断における「授業内容に興味・関心をもつことができる。」の肯定的回答90%を維持する。[90%] ・第1回学力生活実態調査の学力結果(学習到達ゾーン)を第2回結果でも維持する。[国数英計「C3」] イ・学校教育自己診断における「少人数の授業や、関心のある選択授業がある。」の肯定的回答、90%以上を維持する。[92%] ウ・学校教育自己診断の断における「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある。」の肯定的回答90%を維持する。[90%] エ・国内外の作品に触れる機会を維持する。[10回]	(1) ア・新転任の教員を多く迎え入れ、それぞれの学校で学んだ手法を用いて授業展開している様子が見られた。学校教育自己診断における「授業内容に興味・関心をもつことができる。」の肯定的回答は88%と下回っているものの、1人1台端末、プロジェクトを効果的に活用した授業展開を多く見ることができ、刺激される教員も多く見られた。(○) ・第1回学力生活実態調査の学力結果(学習到達ゾーン)を第2回結果で維持できなかった。[R4第1学年国数英計「C1→C2」](△) イ・様々なコンクール、コンペ、イベント参加等によって、発信の場を増やし、多くのところで高評価をいただくことができた。生徒たちが成長していくのを感じた。学校教育自己診断における「少人数の授業や、関心のある選択授業がある。」の肯定的評価は、92%で、現状を維持した。(○) ウ・1・2年生は造形各授業の合評会で、3学年は「課題研究」で、プレゼンを行い、言語活動を充実させる取組みを実施している。今年は英語科でも海外の高校生とつながりプレゼンをする機会をつくり、交流ができた。学校自己診断における「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」の肯定的評価は、91%に微増した。(○) エ・1年生は国際美術館で芸術鑑賞、2年生「美学美術史演習」選択生は授業で美術館鑑賞(6回)、地域の芸術イベントへの参加などを行った。全体での鑑賞回数は減少したが、卒業生の展覧会鑑賞や美術館などへの自主的鑑賞の機会を含めると昨年並みの鑑賞機会を提供することができた。[9回](○)
	(1) 美術・工芸・デザインの技能を生かし、将来、社会の各分野で活躍	(1) ア・美術造形との生涯に渡るかかわり方や大きな将来展望を考えさせるとともに、就労につながる志を育てるために、国内外で活躍する卒	(1) ア・学校教育自己診断における「地域(住之江区)や大学、芸術団体との連携の機会	(1) ア・住之江区とは、長年継続している「大和川再生プロジェクト」が2025大阪万博と絡み、新たなプロジェクトとして動き出した。また、図書

府立港南造形高等学校

<p>2 社会の各分野で活躍できる創造力とバイタリティをもった人間の育成</p>	<p>ア 卒業生の講演、企業や芸術団体と連携した取組み、高一大・専連携講座等の一層の充実</p> <p>イ 地域連携の促進と大阪の地場産業・地域文化の発信</p> <p>ウ 高校生活をより充実させるための目標設定と支援。教育相談体制の充実</p> <p>エ 国公立大学・難関私立大学進学希望者を対象にした講習を計画的・組織的に実施「高校展」等の展覧会への出品・入選、近畿・全国選抜展への出品数を維持</p>	<p>業生の講演、企業や芸術団体と連携した取組み、高一大・専連携講座等の一層の充実を図る。</p> <p>・第3学年各専門分野「課題研究」の授業において、キャリア教育に関する講演会等を実施する。</p> <p>イ・大阪市住之江区を中心とする地域連携を促進する。大阪の地場産業・地域文化の企画力・発信力を養い、発表の喜びや社会貢献の大切さを体感させる。</p> <p>・ボランティア活動等を通して、生徒に達成感を与えるとともに、生命を大切にする心、社会のルールを守る態度を養う。また、コロナ感染拡大が落ち着いた時点で、地域と合同で避難訓練を実施するなど、防災面での連携をさらに進め、防災学習に生かしていく。</p> <p>ウ 高校生活をより充実させるため、将来を見据えた具体的な目標を立てさせ、生徒一人ひとりに応じた指導を組織的に行う。また、高校生活全般において、きめ細かい相談ができるように教育相談体制の充実を図る。</p> <p>エ・国公立大学(美術系)や難関私立美術大学進学を実現する指導体制を充実し、国公立大学進学希望者をはじめとする大学入学共通テスト受験者には、実技と学習にバランスよく取り組めるよう、補習・講習の整理と精選を行う。</p> <p>・「高校展」や「芸文祭」等の高校生対象の公募展はもとより、大学・専門学校や企業などの外部団体が主催するコンクールに積極的に出品・参加し、意欲・実技力の向上を図る。</p> <p>・部活動指導や補習による、生徒・教員の過度の負担を増やさないために、部活動の方針に基づき「定時退庁日」、「ノークラブデイ」を確実に実施する。</p>	<p>がある。」の肯定的回答を、70%に近づける。[66%]</p> <p>イ・学校教育自己診断における「部活動や生徒会活動が盛んである。」の肯定的回答 90%を維持する。[94%]</p> <p>・学校教育自己診断における「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」の肯定的回答の90%を維持する。[93%]</p> <p>・学校教育自己診断における「学校で、事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動すべきか指導されている。」の肯定的回答を、80%以上にする。[72%]</p> <p>ウ・学校教育自己診断における「進路実現に向けて、進学や就職など適切な指導が行われている。」の肯定的回答、90%以上を維持する。[92%]</p> <p>・学校教育自己診断における「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、相談することができる先生がいる」の肯定的回答を80%以上に上げる。[73%]</p> <p>エ・学校教育自己診断における「高校展や芸文祭などの制作活動を通じて、達成感が得られる。」の肯定的回答 90%を維持する。[91%]</p> <p>・「定時退庁日」、「ノークラブデイ」を確実に実施する。</p>	<p>館とのコラボ企画では、「あなたのおすすめ本のPOP 広場」で優秀な成績をおさめるなど昨年より深い交流ができています。地域のイベントでは参加体験型の作品を披露し、地元の方からも高い評価を受けた。さらに住之江警察、住之江区役所とイベントコラボも手掛けるようになった。学校教育自己診断における「地域(住之江区)や大学、芸術団体との連携の機会がある。」肯定的回答は、7ポイント上昇し73%に。(◎)</p> <p>イ・学校教育自己診断における「部活動や生徒会活動が盛んである。」の肯定的回答は、91%と90%を維持した。(○)</p> <p>・学校教育自己診断における「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」の肯定的回答83%になり、90%を維持できなかった。(△)</p> <p>・地域自治体及び保育所と合同で避難訓練を行い、防災について考える機会をつくった。学校教育自己診断における「学校で、事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動すべきか指導されている。」肯定的回答は、目標値の80%には達しなかったが、6ポイント上昇し78%になった。(○)</p> <p>ウ・国公立大学(美術系)3/15 現在10名合格(昨年度4名)。就職希望者13名全員内定。「全国美術系大学・短大合同説明会」も6月に在校生のみ参加にして通常通り行った。学校教育自己診断における「進路実現に向けて、進学や就職など適切な指導が行われている。」の肯定的回答は92%で、現状維持した。(○)</p> <p>・スクールカウンセラーの来校日を月2回に増やし、相談しやすい環境づくりを整備した。学校教育自己診断における「担任の先生以外にも保健室や相談室等で、相談することができる先生がいる。」の肯定的回答を目標値の80%に引き上げた。(○)</p> <p>エ・「高校展」「芸文祭」はもとより、大学主催のアートコンペ等に出品し、優秀な成績をおさめた。学校教育自己診断における「高校展や芸文祭などの制作活動を通じて、達成感が得られる。」の肯定的回答は、91%で、現状を維持した。(○)</p> <p>・「定時退庁日」、「ノークラブデイ」を徹底し、さらに、生徒・教員とも、展覧会前以外は、概ね、退校している。(○)</p>
--	---	---	---	--

府立港南造形高等学校

<p>3 美術・工芸・デザイン教育の日本のセンター校としての役割</p>	<p>(1) 府立学校の専門美術高校、日本一の専門美術高校として果たす役割</p> <p>ア 「全国美術高等学校協議会本部事務局校」として、全国の美術・工芸教育の中心的役割を果たす</p> <p>イ 日本一の専門美術高校にふさわしい情報発信と施設設備の充実</p> <p>ウ 美術教育の振興に貢献するため、本校の教育資源の有効活用と他校種研究団体との連携。センター校として推進</p> <p>エ 造形作品に触れる機会の提供と国際交流</p>	<p>(1)</p> <p>ア 「全国美術高等学校協議会本部事務局校」として、また「全国高等学校美術・工芸教育研究会副会長」として、専門美術高校だけでなく、全国の美術・工芸教育の中心的役割を果たしていく。教育活動・発表や展覧会を拡充し、近畿・全国に向けて発信していく。</p> <p>「大阪府高等学校美術・工芸教育研究会会長校」として、大阪府全体の「高校展」「芸文祭」で中心的役割を果たすとともに、「港南展」をはじめとした独自行事、取組みのより一層の発展を図る。</p> <p>イ 学校外での生徒作品の展示、コンクールへの参加、報道媒体への情報提供、HP の充実等により日本一の専門美術高校にふさわしい積極的な情報の発信を行う。そのために必要な施設設備及び教材教具等のさらなる改善と充実を図る。</p> <p>ウ 大阪の美術教育の振興に貢献するため、本校の教育資源の有効活用と他校種研究団体との連携。センター校として推進。</p> <p>エ 国内外の造形作品にも触れる機会をつくとともに、国際理解教育の推進を図り、外国の学校との交流や海外研修の実施を推進する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断における「この学校には、他の学校にない特色がある。」の肯定的回答、99%を維持していく。[99%]</p> <p>・令和9年度全国高等学校美術・工芸教育研究大会の大阪招致</p> <p>イ・学校教育自己診断における「学校の施設や設備については満足している。」の肯定的回答を90%以上にする。[89%]</p> <p>ウ・会議への参加頻度・学校運営協議会での意見</p> <p>・中学校教員への実技研修の実施(令和6年度までに)</p> <p>エ・学校教育自己診断における「海外の美術作品を鑑賞したり、他の国との美術に関する交流したりする機会がある。」(R4新設)の肯定的回答を65%以上にする。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・全美協 全国大会(秋田大会)は、リモートで開催となった。</p> <p>・全高美工研 全国大会は、ハイブリット方式で実施し校長のみ対面参加した。</p> <p>・高文連では、東京においての理事会に3回出席し、全国の状況などを確認した。</p> <p>・「港南展」(卒業制作展)は入場者数制限なしで3年ぶりに通常開催できた。学校教育自己診断における「この学校には、他の学校にない特色がある。」の肯定的回答は、99%で維持できている。(◎)</p> <p>・全国高等学校美術・工芸教育研究大会の大阪招致は、令和8年度に確定した。(○)</p> <p>イ・ペール缶製造会社「ジャパンペール」主催のデザインコンペでは、5名の生徒の作品が選ばれ、カレンダーとして多くの人の目に触れる機会を得た。</p> <p>・大学主催コンクールでは、大阪芸術大学「世紀のググインチを探せ!高校生アートコンペティション2022」で「大賞」「部門別最優秀賞」を、大阪成蹊大学「全国アート&デザインコンペティション2022」では「学長賞」「学校賞」「金賞」等をいただいた。</p> <p>・学校教育自己診断における「学校の施設や設備については満足している。」の肯定的回答は、89%から86%へと少し下回ってはいるが、トイレ改修、天井吊り下げ式超短焦点プロジェクタの設置など教育環境整備に努めた。プールの水漏れや循環モーターの取り換え工事も行うことができた。(○)</p> <p>ウ・大阪府高等学校美術・工芸教育研究会(全国副会長)として、全国理事会(6/4 8/25・26)に参加。高校展分散開催9会場視察。</p> <p>・大阪府高等学校芸術文化連盟会長(全国副会長)として、高文連総会理事会(4/28 5/24 1/19)研究大会(12/1.2)に参加、全総文(7/31)の視察を行った。また府内において、芸術文化祭関連行事を主催し、その運営に携わった。</p> <p>・中学校研究授業の指導助言に呼ばれるなど、大阪の子どもたちの美術工芸教育にかかわる部分に貢献できた。学校運営協議会では「小中学校の教員向けの講習についてはぜひ実施してほしい。小さい時ほど美術教育が大切だと思う。」との意見もうかがい、次年度より小・中学校教員対象の実技研修を始めよう準備している。(◎)</p> <p>エ・学校教育自己診断における「海外の美術作品を鑑賞したり、他の国との美術に関する交流したりする機会がある。」の肯定的回答は、61%と目標値には達しなかったものの、昨年度の類似項目値44%からは17ポイント上昇した。また、英語科の取組として海外の学校とつながり、お互いの自己紹介プレゼンを英語でする形の交流が始まった。次年度からは、海外研修の再開を準備している。(○)</p>
--	--	--	---	---